

公共施設の再配置について

花田質問：今熊地区周辺エリアの再配置において、図書館へのカフェや託児所の常設、入浴施設の設置、プレイキンの施設、P P Pの活用、施設利用者への切れ目のない支援について。

答弁：今熊地区周辺エリア複合施設基本構想策定の中で検討していく。

こどもまんなか公園づくりについて

花田質問：住民を交えた会合を開催し、子育て世帯の意見を反映させるなどのこどもまんなか公園づくりについて。ボールを使える専用公園「ボールパーク」の整備について。

答弁：新たな公園等の整備を行う場合には、こどもまんなか公園づくりも検討する。ボール遊び禁止としている公園もあるが、迷惑や危険を及ぼすような行為を除いて利用できるようになっているため、公園のボール遊びのルールについて、看板の表示内容について検討する。

市民活動の新たな担い手の発掘・育成について

花田質問：子どものボランティア活動を織り込んだ事業に対し支援を行うこと、市民へボランティア認定証を交付することについて。

答弁：子どものボランティア活動に特化した制度ではないが、市民公益活動促進補助金制度や、地域力活性化支援事業補助金制度などがある。市が認定証を交付するとすると、課題がある。

花田要望：府中市では、子どもに対し社会貢献活動機会を提供した団体に奨励金を交付する事業を行っている。敦賀市は、市がボランティア活動証明書を交付している。

その他、防災DXの取組について、認知症施策推進計画の策定について、質問いたしました。

令和6年 9月議会 代表質問

すべては、
大阪狭山の未来のために。

大阪狭山市議会議員 / 無所属

花田 まさふみ

活動報告 第7号

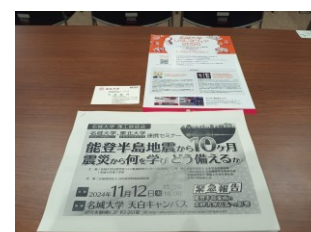
総務文教常任委員会
副委員長・委員長 歴任
予算決算常任委員会
副委員長・委員長 歴任
建築士、防災士、
大阪府被災建築物応急危険度判定士
会派「共創みらい」所属

御挨拶

令和7年11月に迫った近畿大学病院移転に伴う新病院の設立と、跡地開発整備のロードマップが示されました。新病院は、医療法人せいわ会が開設し、外来診療は設けず、回復期リハビリテーション病床に特化した病院として、令和9年4月開業を予定しております。跡地取得企業については、大和ハウス工業株式会社を開発事業者の候補として協議を進めることが示されました。市議会では狭山ニュータウン再生調査特別委員会を設置し、資料の提供や審議を行い、市民のためにより良い方向に進めるために、これからも尽力してまいります。

また、市議会では、デジタル化によるペーパーレス化を目的としてタブレット端末を運用しております。将来的にはタブレット端末等を活用し、市民に開かれた議会を目指してまいります。

これからも「すべては、大阪狭山の未来のために。」誠実に！熱く！まっすぐに！尽力してまいります。



令和6年 12月議会 個人質問

災害時の受援について

花田質問：能登半島地震で派遣した職員の経験の共有と、災害受援計画の策定について。

答弁：計9名の職員を石川県輪島市へ派遣した。職員災害対応能力向上研修を通じて共有を図り、今後の災害対応につなげる。受援計画については、大規模災害により外部からの人的、物的応援を円滑に受け入れ、災害救急対策や被災者支援に必要な計画であると認識し、策定に向けて取り組む。

花田要望：派遣された職員が被災地から学ぶことは多く、また積極的に派遣することで、職員の意識の変化も見られる。今後の災害対応につなげていただきたい。

コミュニティ・スクールの推進について

花田質問：現在7名の地域学校協働活動推進員が活動しているが、来年度募集する3名の位置づけは。

答弁：来年度は会計年度任用職員として、各中学校区に1名ずつの任用を予定しているが、現行の推進員のサポートを得ながら、持続可能な地域学校協働活動の推進に努めていく。

花田要望：子どもたちが生き生きと暮らせる地域づくりを推進するため、学校教育、家庭教育、社会教育が枠組みを超えて連携し、未来を担う子どもたちにとって、よりよい学びを提供いただきたい。

資源ごみの持ち去りについて

花田質問：粗大ごみ収集日の前夜や当日の朝にかけて、他府県ナンバーの軽自動車や小型家電や金属類といった資源ごみを持ち去る事案がある。

答弁：第三者により、無断で資源物のみ持ち去られる事例が発生していることは、ご指摘のとおり。しかしながら、ごみとして出された資源物は、所有権が放棄されたとみなされる。ホームページで、資源物の持ち去り行為を認めない意思表示を行い、実効性のある取組を調査研究していく。その他、若年性認知症患者への支援について、西除川第二排水区雨水調整池の表面利用について、質問いたしました。

所属会派・委員会

○所属会派「共創みらい」 ○議会改革特別委員会 副委員長 ○建設厚生常任委員会委員 ○予算決算常任委員会委員 ○狭山ニュータウン再生調査特別委員会委員 ○南河内環境事業組合議会議員

災害予防対策について

花田質問：①避難行動要支援者名簿の全対象者の個別計画作成を一度に進めるのは困難であるため、対象者の整理が必要ではないか。②福祉や医療関係者等と密接に連携している部局が主となって個別計画作成を推進すべきではないか。③狭あいの道路の早急な解消のために、私有地等を道路の後退部分として寄附した場合に、奨励金を交付する等の施策について。④学校での最悪想定避難訓練の実施について。⑤避難所、仮設住宅等におけるペットの同行避難時において、ルールまたはガイドラインの策定の必要性について。

答弁：①名簿には、安否確認や情報伝達などの支援でよいとされる方もおり、実際に支援が必要な方が分かりづらいという声もあることから、個別避難計画を作成する上で一定の整理が必要ではないかと感じている。②ケアマネジャー等の相談員やサービスの実施事業者が福祉サービス利用者の生活状況や身体状況を把握していることから、ケアマネジャーや事業者等に対し、福祉関連部局から個別避難計画作成の必要性の周知や計画策定の協力依頼を実施する。③道路後退部分を寄附された場合の補助制度を6年前に検討したが、創設には至らなかった。④最悪想定避難訓練は、子どもたちに主体的に考え、行動する力を育むためにも有効であるが、防災教育の充実や地域の理解、関係部局との連携が必要であり。まずは現状の防災教育を丁寧に行い、各校の状況に応じて最悪を想定するという視点を持った訓練を実施していく。⑤環境省から示されている人とペットの災害対策ガイドラインや大阪府獣医師会の専門的な知見等を踏まえ、同行避難ができる避難所での仕組みづくりを検討する。

花田要望：①対象者の整理又は、市に合った制度となるよう進めてほしい。②協力依頼を端緒として個別避難計画の作成を全庁的に推進してほしい。③狭あい道路が、避難の支障となる認識が市にもあることが今回確認できた。道路環境の改善に努めてほしい。④何が起こっても対応できる行動力を育むために、最悪想定訓練を、実施してほしい。⑤避難所運営マニュアルの充実なども検討してほしい。

☆ 毎朝の見守り活動が1900日（9年半）を超えました ☆



2015年5月から始まった毎朝の見守り活動が、2025年1月で1900日を迎えました。登下校の見守り活動は、地域の皆様のご協力で継続されています。心から感謝申し上げます。毎朝登校する児童、自転車で通学する学生や、通勤される方々からのご挨拶をいただき、見守り活動と凡事徹底の大切さを実感しています。また、従前より長期にわたり見守り活動を行っていただいている皆様にも、改めてお礼申し上げます。



全国都市問題会議・全国市議会議長会研究フォーラム



自治体総合フェア研修



南河内環境事業組合議会研修

●プロフィール

花田全史(はなだ まさふみ) 1971年10月生まれ
府立東百舌鳥高等学校、大阪工業技術専門学校 卒業
建築士、防災士、大阪府被災建築物応急危険度判定士
会派「共創みらい」所属

●お気軽にどうぞ！

日頃の困りごと、市政への疑問や不満など、なんでもご相談ください。
電話 072-368-1153 Eメール hanada@osaka.nifty.jp
〒589-0002 東野中2丁目1056-12
発行元:大阪狭山市議会議員 花田全史 / 企画・編集・デザイン:花田全史

公園へのAED設置について

答弁：大阪府内の他市では、公園施設内に管理事務所などがある場合にのみ設置されているところが多い。AEDの屋外設置の可能性について検討していく。まちづくりの成果が効果的に見て取れる指標等について、調査・研究していく。

花田要望：市内公共施設内に設置のAEDは、閉館後や休館日には使用できないことがある。学校体育施設開放時も、学校職員不在時は使用できないことから、屋外設置を要望する。また、ランナーが多い狭山池公園や、コンビニへの設置など、全庁的に取り組んでいただきたい。

腹部超音波スクリーニング検査の補助について

答弁：この検査は、任意の検査として人間ドックなどで実施されており、本市は、国の指針等に基づいたがん検診や健診の実施体制をより一層充実させることが重要と考える。児童生徒の悩み相談やメンタルヘルスの把握は、子どもたちの健やかな学びと育ちにとって大切であると認識している。昨年度よりスクリーニングシステムを導入し、児童生徒の状況把握に努めている。

花田要望：愛知県名古屋市では、同検査の補助事業を始める。本市では、人間ドック等に費用助成を行っており、適用拡充を要望する。

宅配ボックス設置の推進について

答弁：大阪狭山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定する。宅配ボックス設置の推進は、二酸化炭素排出量抑制を期待できると考えている。環境に配慮した製品等の普及促進を図るための新たな取組について、調査研究していく。

花田要望：都市部の自治体で宅配ボックス設置を推進する動きが広がっている。一定規模の共同住宅に設置の義務化や宅配ボックスを無償提供し、再配達を減らす実証実験を行った自治体もある。設置の推進を要望する。

長期保存可能な備蓄食について

答弁：フリーズドライ製法の長期保存可能な備蓄食料は認識しているが、アレルギー対応などの課題もあり採用していない。アレルギー面を考慮した、長期保存可能な備蓄食料の確保に向け検討していく。

花田要望：8年保存のアレルギー対応食もある。非常時の食事は炭水化物に偏りがちとなり、肉や野菜に含まれる栄養素が不足する傾向があるため、ビタミンやミネラルを摂取できるサプリメントの備蓄を要望する。



●情報発信（日々の活動を発信しています）

Facebook 花田まさふみ @MasafumiHanada1971
Facebook 花田まさふみ事務所 @HanadaMasafumi
Instagram @hanadamasafumi
X(Twitter) 花田まさふみ @H_Masafumi
公式 LINE 花田まさふみ市政事務所 @667xkfle
HP <http://hanada-sayama.wixsite.com/home>

